

溝記用紙(番号)

木

写

天地人

1881 8月28日

かに溢れ

1	スグリ蟹メスは吊り目で卵持つ
2	六個づつ風味異なる蜜柑かす
3	寝起きものに守られ月束ゆる
4	冬の月送り狼には下れず
5	駿河山の暮らーの聖女のか手
6	名人は舟傾けて海鼠突く
7	左麻ウの矢は置いてけぼりに冬
8	大雪や湯治の合に湯気の塔
9	寒月や身守り猿の守る町
10	角生やす如き、波頭や冬の月

とかひゆがたきらゆは2月の月のえが一色ゆつ 大きな

まかみう

南柯句会

10月

10月

10月

選句用紙

選者名

寺 藤 伸 彦

特	冬 月	5 指 背 伸 び し て 星 は 聖 樹 の こ そ へ ん こ	4 指 と 指 触 れ て 遠 く に 冬 の 月	3 仕 事 終 へ 秋 を 見 送 る ニ 番 舞	2 食 べ か け の ケ ー キ 聖 夜 の 夜 勤 上	1 海 鳴 リ き ま な め を な め て 冬 の 月
---	--------	---	---	---	---	---

選句用紙

選者名

横田清忠

1	寒川日中身を下す猿の世の曲	2	冬天に縣長十五曲豆が通の丘の儀	3	侍世人と仕事終わるの夕の月	4	釣人の丸き背中を夕の月	5	一と仕事終ふ職人の白い息	6	冬日照る神戸の井は銀の盆	特	金継ぎの「一ヒ一カラ」各の月
---	---------------	---	-----------------	---	---------------	---	-------------	---	--------------	---	--------------	---	----------------

選句用紙

選者名 富野 香衣

特	6	5	4	3	2	1
月は天に凍えて日本国憲法	官跡のピニクテニトに冬の月	指と指触れて遠くに冬の月	赤子ごとくるむコートの檸檬色	日めくりを一度に破る十二月	海鳴りをなだめなだめて冬の月	容なきものに守られ月凍る

選句用紙

選者名

井上

特	6	5	4	3	2	1
大雪 や湯治の谷に湯気の塔	バスを待つ人のあいだに寒雀	並 3コチュニヤン街中華の聖夜	虫蹴りの虫は置いてけぼりに冬	冬うらら弾むボーカルの拍子抜け	着ぶくれて妄想族の母娘	北風に搖れるカーテン猫覗く

## 選句用紙

選者名 幸草

特	6	5	4	3	2	1
久リスマスイテ素うどんの葛刻む	食へかげのケイキ聖夜の夜勤室	運命にまた生きられて年の暮	故郷と離る聖夜と終の夜と	冬晴れやあをき单衣の遠の山	待ち人と仕事終山りの冬の月	冬の月詠せ今からすの句碑こうひ

選句用紙

選者名

砂布金郷

特	6	5	4	3	2	1
地は凍え土星に六十二個の月	白山に靈魂眼了冬の月	逝きし子の文机に鉢月汎ゆる	冬晴れやあをき单衣の遠の山	指と指触れて遠くに冬の月	駆け戻る子は草の実に愛々されて	寒月や身代り猿の守る町

選句用紙

選者名 宮本二郎

特	6	5	4	3	2	1
ウリママヘイブ	日の月	持フ	田ノ日	日持フ	スヌヌスヌヌヌ	スヌヌヌヌヌヌ
地は東え	日生	ハナ	天井	穴用	人ハス	人ハス
ズワイ蟹	スヌヌスヌヌヌ	アーティ	アーティ	ハニ	ハニ	ハニ
カニ	アーティ	アーティ	アーティ	アーティ	アーティ	アーティ

## 選句用紙

選者名

赤田 よし

特	6	5	4	3	2	1
餃色の灯り魚滅一葉已心	地は凍え土星に六十二個の月	年齢重ね肺まで届く冬の月	冬晴れやあきき單衣の遠の山	缶蹴りの缶は置いてけぼりの冬	赤だしの冬菜味噌汁愛でにけり	金繼きのコヒカフ冬の月

選句用紙

選者名 二昇

10	9	8	①	6	5	4	3	2	1

選句用紙

選者名 白井桃紅

特	6	5	4	3	2	1
食べかけのケーキ 聖夜の夜勤室	冬鷺の首 湾曲に佇めり	出蹴りの出 は直ひてけぼりの冬	ズワイ蟹 メスは吊り目で卵持つ	銭湯のフルーツ 牛乳聖夜待つ	薪窯の煙の重さ 熊眠る	スーパーに広瀬香美の冬が来る

選句用紙

選者名

しゃほん

特	6	5	4	3	2	1
寒月や 諸款印の著 軸	仮宮の 一夜の 宴 冬の月	サ新 窯の 煙の重 き熊 眼	駆け 戻る 子は草 の山実に 變られて	赤子 ごとく かわ スー トの 樟 山もん 棕色	寒 月や 身元 猿 守の 街	錢湯の フルーツ 牛乳 聖夜 待つ

選句用紙

1855.  
the

選者名 井原  
筆者名 井原

選句用紙

選者名

英一郎

特	6	5	4	3	2	1
肩組みて高歌放吟冬の月	月の牙ゆ弥勒半跏の指の先	花びらの反りかえるほど石蕗日和	月凍る受話器震はし母逝きぬ	名人は舟傾けて海鼠穴大く	年齢重ね肺まご届く冬の月	肩組みて高歌放吟冬の月

選句用紙

選者名

上田秋霜

特	6	5	4	3	2	1
	赤子ごとくろむコートの檸檬色 殿 <small>おやじ</small> は山の暮らしの聖女の手	クリスマスイブ素うどんの刻む とれさうな青色鉗クリスマス	花びらの反 <small>そ</small> りかえるほど石踏 <small>カバ</small> 日和 <small>ひより</small>	白山に靈魂眠う冬 <small>ヒマ</small> の月	館色の灯 <small>ハ</small> リ点滅一葉 <small>ハ</small> ハ	

選句用紙

選者名 近藤和早

特	6	5	4	3	2	1
宮跡のセーラーノートに冬の月	名人は舟傾げて海鼠穴大く	月汎えて551手にあまるほど	軍 <sup>あ</sup> 皮 <sup>か</sup> は山の暮 <sup>ら</sup> しの聖 <sup>せ</sup> 母 <sup>の</sup> 手	冬月や虚空を見つむ樹脂の丸	駆 <sup>か</sup> け戻 <sup>も</sup> す子は草の實に恋 <sup>め</sup> されて	空 <sup>か</sup> なキ <sup>こ</sup> ものに守 <sup>ま</sup> られ月凍 <sup>る</sup>

選句用紙

選者名 陳洋子

特	6	5	4	3	2	1
金継ぎのコーヒーカップ 冬の月	駆ピアノショパンメドレー 冬の月	冬の月 送り狼にはなれず	クリスマスイブ素ラビンの宵 刻む	凍月の涙の小走り出国口	クローケにコートを開演五分前	仮り宮の一夜の宴 冬の月

## 選句用紙

選者名 真一

特	6	5	4	3	2	1
スカートの裾から流れニむ郎走	寒月や身代り猿の守る町	月牙えて551字にあまるほど	食べかけのケーキ聖夜の夜勤室	凍月の涙の小走り出 <sup>レ</sup> 国口	クリスマスイブ素うどんの恩刻む	冬の日並り猿にはなれず

## 選句用紙

選者名 山崎たか

特	6	5	4	3	2	1
聖樹前泣くうねるう手を振るう	食べかけのチーキ	冬鳥の首湾曲に佇めり	駆け廻る子は草の実に恋せらる	修行場の僧の瞑想に冬の日	冬月や虚空を見つむ樹脂の大	冬の月詠み分からずの句碑でらす

## 選句用紙

選者名 文藏

特	6	5	4	3	2	1
庄上は愛一やされど冬に發つ	容なきものに守られ月凍る	胸の子とカートに二人小春かな	肩組みて高歌放吟冬の月	満たされて朱塗りの杯の冬の月	命の灯今消ゆ母よ冬の月	冬晴れやあをす草衣の遠の山

選句用紙

選者名 福田 滉弥

特	6	5	4	3	2	1
冬 冬麗の吐息すベラセハモニカ	薪窯 薪窯の煙の重さ熊眠る	聖樹 聖樹前泣く子柳ねみ子手を振る子	矢跡 矢跡リの矢は置きてほりに冬	月 月の汎ゆ跡勒半跏の指の先	遊 遊るコチニヤン街中華の聖夜	眉 眉を引くドライグクリン冬の月

## 選句用紙

選者名

岡本へちま

特	6	5	4	3	2	1
食べかけのケーキ聖夜の夜勤室	缶蹴りの缶は置いてけぼりに冬	一と仕事終ふ職人の白き息	冬紅葉鶴越といふ難所	白めくりを一度に破る十二月	薪窓の煙の重さ熊眠る	クローケトコートを開演五分前

## 選句用紙

選者名

山本わー

特	6	5	4	3	2	1	
	花びらの 反りかえるほど 石蹊日和	山蹴りの 山は置いてけぼりに 冬	駆け戻る子は草の実に 爰されて	早稻 晩生 時を 探り 秋起こし	とれそつな青色 鉢クリスマス	晩秋のメタセコイヤや 焰立つ	冬、震の吐息すべらせハモニカ